

差別のない明るいまちを

あなたは自分のことを好きですか

という気持ちです。

「人権」について考える時、「人間を大切に思う気持ち」が基盤になることです。自分のことが嫌いで、自分のことを大切に思えなかつたら、他の人のことを大切にしようという気持ちにもなりにくいんですね。「自分のことを好きで大切に思う気持ち」は、人権意識の基盤になるものだといいでしょう。

「あなたは、自分のことを好きですか」と尋ねられたら、どう答えますか。

「自分のことを好きだ」というと、何だか自慢しているような気持ちにつながると思ったり、また「うぬぼれ」という言葉を思い浮かべてひどく傲慢な意識のように感じるかもしれません。「自分のことを好きだ。自分のことを大切に思う」という気持ちは、とても大切だといわれます。それは、「自分は人より優れている人間だから自分が好きである」という気持ちよりも「欠点もあるけど、自分にはこんないい所もある。それなりに一生懸命に生きていく自分が結構好きである」

このように「自分を好きだと思う気持ち」（「自尊感情」といいます）が低くなるといういろいろな場面で問題がおこってきます。

例を挙げて考えてみましょう。

いじめ

「いじめ」の加害者である子どもの中には、学校や家庭で自己否定ばかりされて、日常生活で不安な気持ちになり欲求不安を持ち、イライラした状態の中にいることが多いと言われます。

虐待

子どもへの虐待という行動に走ってしまう親の中には、幼いころに両親や祖父母等から、かけがえない大切な存在として扱われなかつたという人がいます。そんな人の中には自分と自分の子どもとを重ねてしまつて虐待をすることがあると言われます。

また、夫から暴力を振るわれるなど家庭内の人間関係がうまくいかないことが原因で自分がコントロールできず、子どもへの虐待という行動に出てしまう場合もあるようです。

何でも打ち明けられる友人がいないとか、ストレスがたまつた時援助してくれる友人がいないなど孤立した親には不満のけ口がなくて、虐待をしてしま

うことになっていくのでしよう。

差別落書き

自分を好きになれず、自分を積極的に評価できない時、自分より弱い相手を攻撃しようとする傾向があることは、前記しましたが、差別落書きもこのような例だと思えます。

差別落書きをした当事者の場合、次のような状況にあったということが分かつています。自分の生活や仕事などに恨みや不満があつたり、物事が順調に進まななくて不安定な気持ちでいる時などに差別落書きという行為に走るということがあつたようです。

どの場合にも「自尊感情」が低いという共通点があります。「自尊感情」は人間関係の中で育まれます。「自分が好き」そして「相手が好き」、「自分が大事」そして「相手が大事」という人間関係をしっかりと作っていきたいものです。その中で子どもも大人も、そして学校でも家庭でも社会でも、自尊感情を育んでいこうではありませんか。

参考文献

「自分を好きになろう」
セルフ・エスティームと人権感覚
著者 中川喜代子
発行 解放出版社

人権の詩

おとこのくせにと
いわれたこと

てつや

きょう

おにいちゃんと けんかして
あたまを たたかれました。

ものすごく いたかつたので

わあわあとないてしまいました。

おかあさんが きて

おおきな こえで

「おとこのくせになくな。」と

おとこのひとみたいに おこつた。

そして

どたどたと いった しまった。

ぼくは

ちいさなこえで

「なんだ。おんなのくせに。」と

いいかえしてやった。

引用 「人権教育読本」

せいかつ・1年
鈴木祥蔵・今野敏彦他編
明治図書出版